資料３
（菅原参考人提出資料）

2025 年 12 月 19 日

第２回こどものケアニーズに応じた支援の在り方に関する専門委員会提出資料

白百合女子大学 菅原ますみ

第１回委員会での議論を踏まえた資料をお送りいただき誠にありがとうございました。前回の資料及び議論のなかでも“こどものケアニーズに応じた支援の在り方”を検討する際の重視すべき観点のひとつとして、“当該のこどもが成育歴のなかでどのような体験を経てきたのか”ということとともに、“ウェルビーイングを維持するためのニーズが現在きちんと満たされているか”について、子ども自身の評価を含めてていねいに見ていくことが重要であることが確認されたかと思います：

＜上鹿渡委員：資料３＞
「クリニックで反社会的子どもたちを扱う場合、たんに精神療法を勧めることは役に立ちません。**最初に重要なことは子どもをふさわしい場所に置くこと**であり、ふさわしい場所はそれだけで、かなりのケースに対して治療として機能します。」
「反社会的傾向の治療に関して必要なものは子どもの世話の提供であり、**新しく提供された環境の安定性こそが最重要**」

１．提案

こどものニーズの把握の観点として、現在の状況を付加してはいかがかと考えます：

１．こどもの背景等
（前回資料での表記：課題の背景・要因）
※こどもの背景等について、見落としを防ぐため、便宜的に類型ごとに分類して記載しており、重複もあり得る。

Ⅰ　特徴
①知的障害（疑い含む）
②発達障害（疑い含む）
（例）ADHD、LD、ASDなど
③身体障害（疑い含む）
（例）身体虚弱、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害など
Ⅱ　経験
④被虐待経験
身体的虐待、心理的虐待、ネグレクト、性的虐待
⑤喪失体験
（例）親の死、兄弟姉妹の死、父母の離婚、再婚など
⑥犯罪被害、いじめ
⑦精神障害（疑い含む）
（例）PTSD、トラウマ、統合失調症、双極性障害など
⑧アタッチメント（愛着）形成上の課題
（例）不適切な養育等による不安や緊張の高さ、過適応、不得手なコミュニケーション、対人距離のとれなさ、自己肯定感の低さ、協調性のなさなど
Ⅲ　環境
⑨生育環境
（例）基本的な生活習慣、経済状況、家庭環境、養育機能、地域社会の養育環境、対人被害、妊娠中の母親の体調など

※上記を考える際には、こどもの過去から現在までの状況、背景を見ることが必要。

１．こどもの背景等
（前回資料での表記：課題の背景・要因）
※こどもの背景等について、見落としを防ぐため、便宜的に類型ごとに分類して記載しており、重複もあり得る。

Ⅰ　特徴
①知的障害（疑い含む）
②発達障害（疑い含む）
（例）ADHD、LD、ASDなど
③身体障害（疑い含む）
（例）身体虚弱、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害など
Ⅱ　経験
④被虐待経験
身体的虐待、心理的虐待、ネグレクト、性的虐待
⑤喪失体験
（例）親の死、兄弟姉妹の死、父母の離婚、再婚など
⑥犯罪被害、いじめ
⑦精神障害（疑い含む）
（例）PTSD、トラウマ、統合失調症、双極性障害など
⑧アタッチメント（愛着）形成上の課題
（例）不適切な養育等による不安や緊張の高さ、過適応、不得手なコミュニケーション、対人距離のとれなさ、自己肯定感の低さ、協調性のなさなど
Ⅲ　環境
⑨生育環境
（例）基本的な生活習慣、経済状況、家庭環境、養育機能、地域社会の養育環境、対人被害、妊娠中の母親の体調など
Ⅳ　現在の状況と環境
（例）保護的・補償的体験、安全な居場所等

※上記を考える際には、こどもの過去から現在までの状況、背景を見ることが必要。

２．逆境的小児期体験（Adverse Childhood Experiences: ACEs）とその影響を緩和する保護的・補償的体験（Protective and Compensatory Experiences: PACEs, Hays-Grudo & Morris, 2020）

＜上鹿渡委員：資料３（続き）＞

具体的には**子ども時代の肯定的な体験(PCEs）や保護的・補償的体験（PACEs）**等の考えを入れた評価によって、**不足している部分をニーズと捉える**ことで、それをどう補うか個別・具体的な対応につなげられるのではないでしょうか。年齢、障害、行動上の問題、心理的問題、医療的ケアの必要性を検討するだけでは把握できないニーズ、これを満たすことがこどもの回復につながるニーズを捉えられるのではないかと思います。

PACEs：肯定的な感情を生み出す基盤となる子ども期の体験

＊枠組みの基盤：関係性（relationship）と資源（resources）

＜10のPACEs＞

関係性（relationships）	資源（resources）
・親（養育者）から無条件に愛されること ・親友がいること ・コミュニティでのボランティア活動に参加すること ・社会的なグループの一員であること ・家族以外の大人（メンター）からのサポートを受けること	・清潔で安全で十分な食べ物がある家で暮らすこと ・学ぶための資源や機会があること ・趣味をもつこと（芸術的、創造的、知的） ・組織的なスポーツ/定期的な運動をすること ・公平で一貫性のあるきまりや約束ごとがある家族の一員であること

＊様々な先行研究で明らかにされてきたレジリエンス要因のなかでも、
修正可能な（modifiable）な要因とプロセスに焦点をあてている
⇒ いつからでも“発達し強化されうる関係性”と“与えられ高められうる資源”

＊PACEsはACEsのネガティブな影響（とくに虐待）からの保護要因となる

＊PACEsはACEsと負の相関があり、ACEsと同様に共起する傾向がある。
PACE尺度の信頼性・妥当性についても検証されている
（Hays-Grudo & Morris, 2020）

23

：マステンらのレジリエンス要因に関するショートリスト（Masten, 2001; 2014）や健全な発達にとって“関係性（relationships）”（ソーシャル・サポートの供給）と“資源（resources）”（発達に必要な教育的環境）が必要であるとするサメロフらの研究（Sameroff et al., 2006）などをもとに開発（Hays-Grudo & Morris, 2020）

小児期保護・補償体験尺度
（日本語版：菅原ら，2021）

1. 誰かに無条件に愛されること（自分を養育してくれることに疑念を持たなくて 済む体験）
2. 援助や助言が必要なときに、信頼して頼ることのできる、親ではないおとながひとりは存在していること
3. 十分な食事と清潔で安全な住居に住んでいること
4. 家庭のなかに、明確で公平なきまりや約束ごとがあること
5. 少なくともひとりの親友を持つこと（信頼し一緒に 楽しめる友人関係の体験）
6. 必要なことを教えてくれる学校に通学できていること
7. 定期的に誰かを援助した体験（病院や保育・福祉施設などでのボランティア）や、他者を援助するコミュニティでのプロジェクト（フードバンクや子ども食堂等）への参加体験
8. 定期的な組織的なスポーツグループ（サッカー、野球等）や体育活動（体操、ダンス等）への参加体験
9. ボーイスカウトやガールスカウト等の市民的・社会的な活動への活発な参加体験
10. ひとりであるいはグループでおこなう熱中できる趣味（芸術的/創造的、知的なもの）を持つこと

Protective and Compensatory Experiences (PACEs)
(Hays-Grudo & Morris, 2020, p.40, Figure 2.2.)

When you were growing up, prior to your 18th birthday:

1. Did you have someone who loved you unconditionally (you did not doubt that they cared about you)?
2. Did you have at least one best friend (someone you could trust, had fun with)?
3. Did you do anything regularly to help others (e.g., volunteer at a hospital, nursing home, church) or do special projects in the community to help others (food drives, Habitat for Humanity)?
4. Were you regularly involved in organized sports groups (e.g., soccer, basketball, track) or other physical activity (e.g., competitive cheer, gymnastics, dance, marching band)?
5. Were you an active member of at least one civic group or a non-sport social group such as scouts, religious group, or youth group?
6. Did you have an engaging hobby-an artistic/creative or intellectual pastime either alone or in a group (e.g., chess club, debate team, musical instrument or vocal group, theater, spelling bee, or did you read a lot)?
7. Was there an adult (not your parent) you trusted and could count on when you needed help or advice (e.g., coach, teacher. minister, neighbor, relative)?
8. Was your home typically clean AND safe with enough food to eat?
9. Overall, did your schools provide the resources and academic experiences you needed to learn?
10. In your home, were there rules that were clear and fairly administered?

24

私たちの研究から：全国児童養護施設の高校生調査

- 対象：全国25の児童養護施設の高校生(271名，男子53.2%・女子46.8%)
  とその担当職員の方々
- 調査時期：2022年9月～2023年3月
- 調査方法：質問紙調査
-

施設職員の方に回答を求めた

①施設入所前のACEs

②問題行動と精神症状

Strengths and Difficulties Questionnaire：SDQ

高校生に回答を求めた

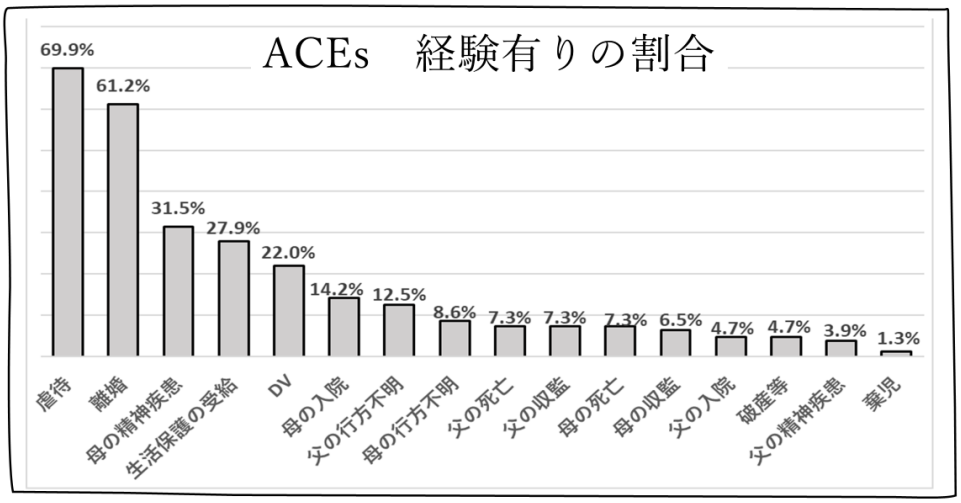
③高校生現在版のPACEs

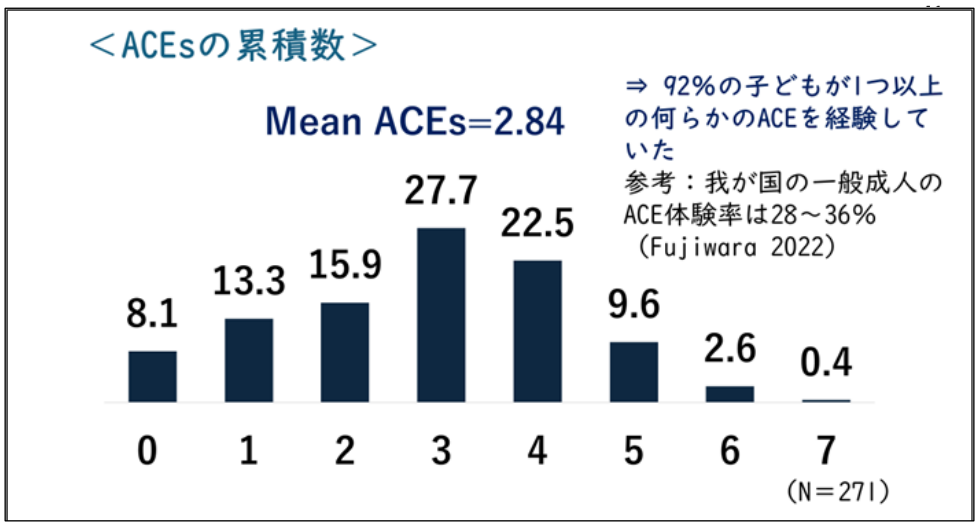
④結果：学校適応，自尊感情

・情緒の問題
・行為の問題
・多動/不注意
・仲間関係の問題

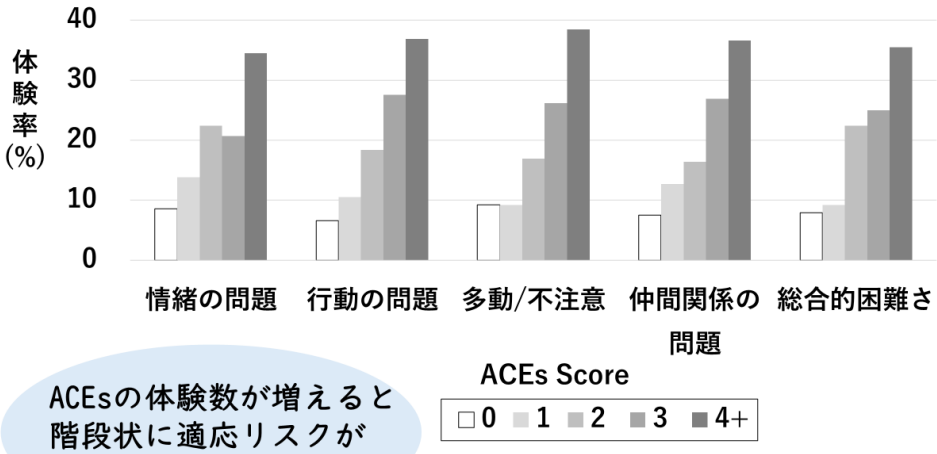
→ **4つの合計が総合的困難さ**

40



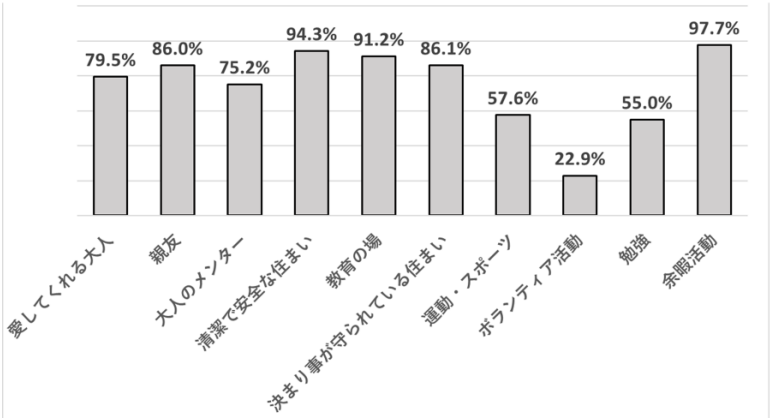


＜ACEsと適応リスク＞

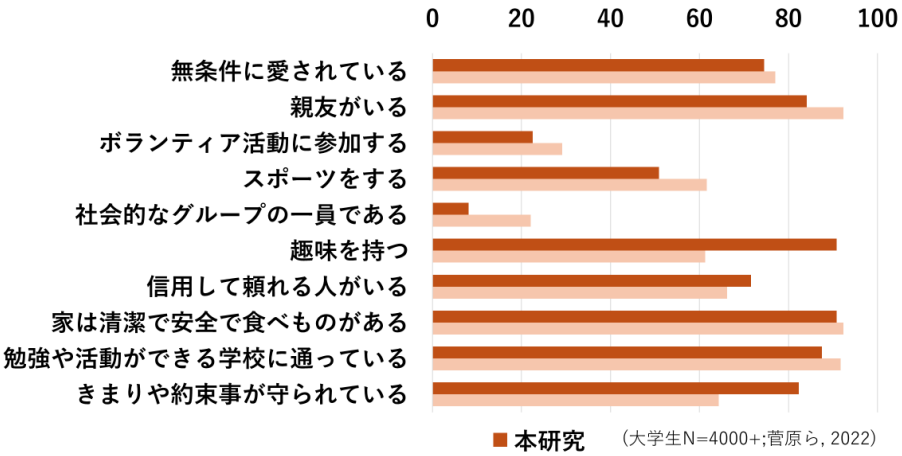


ACEsの体験数が増えると階段状に適応リスクが増加する。

PACEs 現在体験有りの割合



＜PACEsの体験率：一般大学生との比較＞

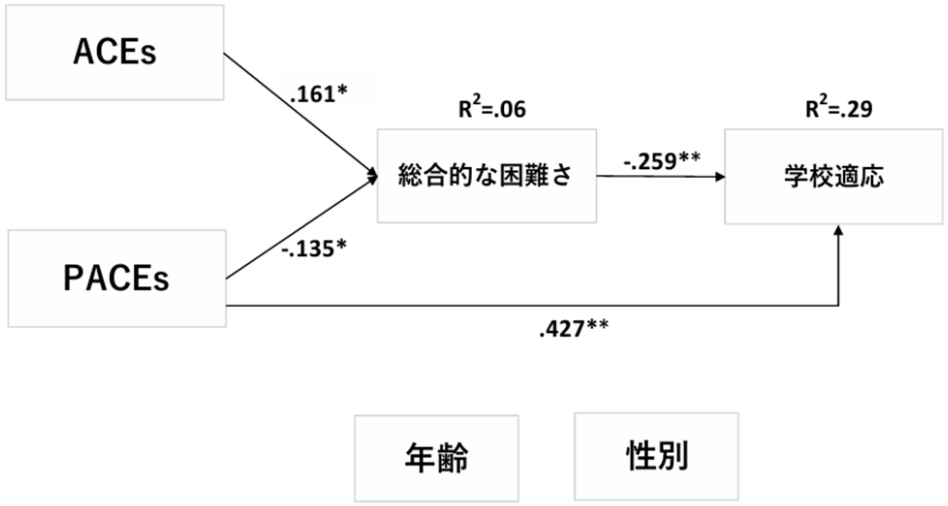


⇒高校生と大学生の違いはあるが、趣味や規則正しい生活体験は今回の対象者のほうが多め。同時期に調査した全国一般家庭の高校生（660名）より有意に多かった（施設群：平均6.79点/一般家庭群：平均6.43点，$p < .01$で有意差あり）。

適応を予測する回帰モデル

性別と年齢を統制した。$\chi^2(3)=6.15$, CFI=.95, RMSEA=0.62

- 過去のACEs体験ではなく現在のPACEs体験が，高校生の問題行動得点と有意な関連を示した。
- 現在のPACEs体験が，自尊感情を高め，問題行動を低減する可能性が示唆された



**p<.01 *p<.05 N=271, $\chi^2=0.996$, $p=.608$ CFI=1.000, RMSEA=0.000

(Yoshitake, N. & Sugawara, M. Protective Experiences and Multidomain Psychosocial Adjustment Among Adolescents in Residential Care: Evidence for Compensatory Model. ISSBD 28th Biennial Meeting (June 21 – 25, 2026 | Incheon, South Korea)